

生きづらさを抱える 若者主体の地域づくり

独立行政法人福祉医療機構(WAM)が行う社会福祉振興助成事業(WAM助成)は、国庫補助金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人暮らしづくりネットワーク北芝の取り組みを紹介します。

誰もが安心して暮らせる まちを目指して

大阪府箕面市にある特定非営利活動法人暮らしづくりネットワーク北芝は、活動拠点である萱野地域の子どもから高齢者まで誰もが住みやすいまちを目指し、平成13年6月に設立された。

主な活動として、地域の課題を解決するための活動を起こそうとしている個人や団体の中間支援を行い、さまざまな人と活動をつなぐ役割を担っている。平成22年からは箕面市立萱野中央人権センター「らいとぴあ21」の

指定管理を受託し、生活困窮者自立支援制度の相談事業をはじめ、放課後等デイサービスや子どもの居場所事業を運営するほか、子ども食堂などのさまざまなイベントを定期的に開催している。

さらに、同法人は生きづらさを抱える若者の支援に力を入れ、気軽に困りごとを持ち込める社会的居場所「あおぞら」の運営を通じて若者当事者が力を発揮し、誰もが安心して暮らしやすい地域づくりに取り組んできた。

箕面市の地域特性や、若者支援に取り組んだ経緯について、同法人の尼野千絵氏は次のように語る。

「活動拠点としている箕面市は、大阪市内のベッドタウンとして富裕層が多く、人口も増加している地域になります。その一方で、経済的に安定している世帯が多いがゆえに若者のひきこもりが長期化していたり、生活困窮層が声をあげられず、地域で見えづらなどの課題もあります。また、当法人は生活困窮者の相談事業を行っています。市内には若者支援に特化した支援機関がほぼない状況であるため、ひきこもり状態の若者も生活困窮者の相談窓口を訪れるなど、生きづらさを

一言 WAMから

地域特性を理解し、そこで必要とされる支援を展開していることから、地域で信頼される団体となっており、それゆえに顕在化するニーズも把握できています。

変化を生み出す良質な支援を展開していることや、当事者とともに「マガジン」を作成する等、主体性を生かした取り組みをされたことにも大きな意義があり、高く評価しています。

現代社会において、若者支援が必要とされていることを見抜いた先駆的な取り組みとして今後の展開が期待されます。

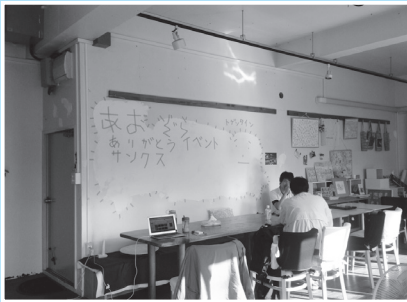
抱えている若者と出会う機会が多いことが若者支援に取り組むきっかけになりました。具体的な若者支援としては、コーヒー焙煎プログラムや地域に新たな働く場を生み出すことで、地域で孤立する若者が力を発揮し、地域とのつながりをつくることに取り組みました(以下、「」中の発言は尼野氏の説明)。

社会的居場所を通じて 生きづらさを抱える若者を支援

この若者支援の取り組みは、平成28年度度WAM助成を活用し、「生活困窮に陥った若者主体の地域づくり事業」として実施した。

同事業は、「あおぞら」の活動を通じて生きづらさを抱える若者が力を発揮し、安心して暮らせる地域づくりに寄与するとともに、若者当事者の現状や課題を地域に発信することを目的に、①事業運営委員会の開催、②社会





社会的居場所「あおぞら」の活動スペース。定期的にさまざまなプログラムを実施し、料理会では当事者同士にとどまらず、参加した地域住民と一緒に食事をするなど地域とのつながりをつくった



居場所「あおぞら」の運営、③箕面若者支援施策のあり方研究会、④当事者研究会「ヒバ子の集い」、⑤地域のフードバンク構築事業プロジェクトなどを行った。

事業の実施にあたっては、事業運営委員会を毎月開催し、連携団体と円滑な事業運営に向けて検討を行った。また、連携団体にとどまらず、日頃から関わりのある若者にも参加してもらうことで、当事者の声を反映した運営につながった。

地域福祉拠点を確立することを目的にした「あおぞら」の実施体制は、毎週火・金曜日に無料で使用できるパソコンを設置したフリースペースを若者当事者に開放し、若者当事者が参加できる料理会やコーヒーセミナー、出張相談会などのプログラムを定期的に実施した。

「フリースペースでは、当事者同士の仲間づくりのため、趣味に関するサークル活動を行ったり、自由に利用できる環境をつくりました。なかには具体的な活動プログラムがあっ

たほうが参加しやすい人や、活動を強要されたくない人もいますので、一人ひとりの状態にあわせたオーダーメイドの支援を行うことを大切にしています。

毎週開催した料理会では、料理が得意な地域住民に協力してもらい、若者当事者と地域住民と一緒に調理して会食をしたり、料理教室（2カ月に1回）を開催することで地域とのつながりをつくる活動とした。

また、年2回実施したコーヒーセミナーでは、「あおぞら」に焙煎機を設置し、専門家から焙煎技術やブレンド

当事者が参加できる さまざまなプログラムを実施

方法などについて学んだ。

「コーヒー焙煎の活動は、作業を細分化しやすいというメリットがあり、若者の仕事づくりの一環として取り入れられました。豆を選別するピッキング作業は根気や集中力を必要としますし、焙煎やブレンドは奥深く、研究する楽しさがあります。さらに、包装・パッケージなど人と関わらずにできる作業や、淹れたコーヒーを販売する接客などの仕事もあり、当事者にとって、自分にあった関わり方が可能となっています」。

事業概要

助成額
699万7千円

平成28年度事業

特定非営利活動法人暮らしづくりネットワーク北芝 生活困窮に陥った若者主体の地域づくり事業

【事業概要】

生活困窮状態にあって生きづらさを抱える若者が力を発揮し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに寄与することを目的に、気軽に困りごとを持ち込める社会的居場所「あおぞら」を運営し、地域福祉の拠点の定着を目指すとともに、生きづらさを抱える若者への理解を深める研究会などを実施する事業



【実施内容】

- ◆社会的居場所「あおぞら」の運営
社会的居場所の運営を通じて社会福祉拠点を確立することを目的に、若者たちが参加できる自主サークル活動をはじめ、さまざまなプログラムを開催
- ◆箕面若者支援施策のあり方研究会
箕面市内の若者や行政、教育機関、支援機関を対象にした研究会を開催し、見えにくい生きづらさを抱える若者への理解を深めた
- ◆当事者研究会「ヒバ子の集い」
若者当事者自身が「生きづらさ」を言語化した雑誌を作成し、社会に発信するツールとして活用
- ◆地域のフードバンク構築プロジェクト
住民の協力を得て、地域内のフードバンクの仕組みを構築するとともに、地域でオープンな会食を実施



【成果】

- ◆社会的居場所「あおぞら」の年間来所者数は延べ965人に達し、多様なプログラムを通じて、若者たちは「心の置き場所」を獲得することができた
 - ◆全4回開催した研究会には、行政や教育・支援機関など延べ141人が参加。生きづらさを抱えた若者の存在を知り、ともに考える機会をつくったことにより、地域のなかで理解者を増やすことにつながった
 - ◆社会的居場所「あおぞら」が果たした役割として、当事者の状態に合わせたオーダーメイドの支援を行うなかで、仲間（ピアサポート）や集団のなかでの役割があることを実感することにより、定期的な来所につながるとともに、生活リズムを整えることができた
- これらの要素が積み重なり、自信をもつことにつながって就労に結びついたケースもあった



そのほかにも、出張相談会を週1回実施し、小学校の元校長や保健師に相談員として来所してもらい、健康や生活に関することや、ひきこもりの子をもつ親などからの相談に対応した。

近隣には高齢者が多く住む団地があり、「あおぞら」を地域に根ざした地域福祉拠点とするため、地域住民から生活の困りごとの相談も受けており、インターネットで調べ物の手伝いをするなど生活のサポートも行った。

「あおぞら」の年間利用実績（平成27年4月～28年3月）は、延べ965人にのぼった。当事者の状態にあわせたオーダーメイドの支援やプログラムを通して、仲間の存在（ピアサポート）があることや、集団のなかに自分の役割があることで自信につながり、継続して来所する利用者が多かった。また、近隣の地域住民も多く立ち寄りなど、地域福祉拠点として定着した。



「あおぞら」のプログラムで実施したコーヒー焙煎の作業に取り組む当事者の様子



学習会や冊子の作成を通じて 若者への理解を深める

生きづらさを抱える若者への理解を促す取り組みとしては、行政や教育・支援機関の関係者を対象に箕面若者支援施策ありかた研究会（全4回）を開催し、計141人が参加した。研究会では若者の現状や課題を共有するとともに、分野横断的に若者支援について考える機会とした。

そのほかにも、若者への理解を深める取り組みでは、「ヒバ子の集い」のメンバーが中心になり、若者当事者自身が生きづらさを言語化した冊子「若者の生きづらさを小さな声で絶叫するマガジン」を2号作成し、社会に向けて発信した。

「ヒバ子の集い」は、若者当事者が中心となり、対話を通して自分の価値観や生きづらさについて考えることを目的に立ち上げた研究会であり、「フィードバック」という意味から名づけられている。

冊子の具体的な内容としては、第1号では「はたらく」ことをテーマに若者当事者が考える理想の働き方などを掲載し、これから出会う職場や地域の人たちに、どのようなこと

に生きづらさを感じているのかを伝えている。また、「被災」をテーマとした第2号では、スタッフと一緒に「ヒバ子の集い」の主要メンバーが熊本地震の被災地を訪れ、現地の支援団体を取材し、被災時に自分たちができることについて考える内容となっている。

このマガジンは2000部ずつ発行し、行政や全国の若者支援団体、市内の教育機関などに配布している。配布先からは大きな反響があり、現在も追加配布の要望が多く寄せられているという。

地域住民と連携して 食に関する活動に取り組む

また、助成事業では、生活困窮者への食料支援とその孤立解消を目的に、地域内で柔軟に活用できるフードバンク機能の構築にも取り組んだ。フードバンク団体や地域住民から食料の提供を受け、生活困窮者や同法人が運営する2カ所の子ども食堂のほか、地域住民に向けた食事会や防災などのイベントに活用している。

助成事業のほかにも、食を通じた活動では地域住民と連携しながら「芝樂市」を毎月開催した。

『芝樂市』は、当法人の開設当初に行っていた活動で、卵かけご飯や豚汁、サンドウィッチ、うどん、あげパンなどの朝食の屋台を出店するほか、近隣の農家に野菜を販売してもらい、地域住民と一緒に会食しながら、コミュニケーションを図る場となっていました。実施体制の維持が厳しく活動を休止して

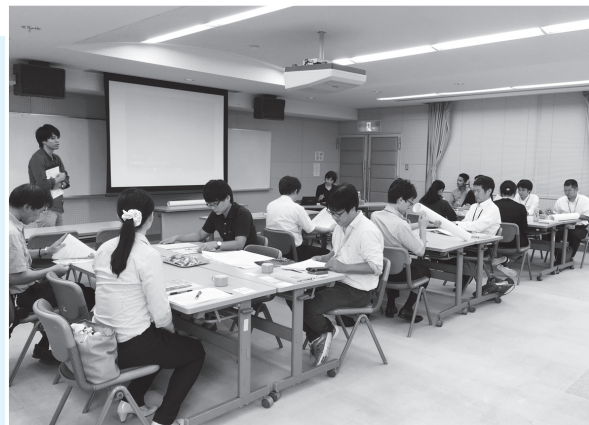


助成事業の成果としては、生きづらさを抱える若者が「あおぞら」をはじめ、さまざまな活動に参加することで自信につながったことに加え、地域に向けて若者当事者への理解を深められたことである。

『あおぞら』の運営当初は、空間的な場所に居場所の要素があると考えていましたが、助成事業で実施した多様なプログラムを通して『心の置き場所や機能』こそが居場所の重要

居場所の重要な要素は「心の置き場所」

いたのですが、地域住民との話し合いのなかで要望があったことから、地域住民との共同運営というかたちで再開しました。コーヒーセミナーの参加者も毎回販売ブースを出店し、接客をしているので地域とのつながりができ、若者が自分の力を発揮する場にもなっています」。

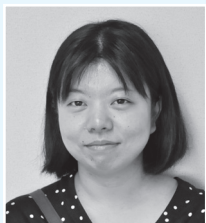


全4回開催した箕面若者支援施策のあり方研究会には、行政や教育・支援機関を中心に計141人が参加し、若者の現状や課題について理解を深めた

地域のなかで 若者支援ネットワークを構築

特定非営利活動法人
暮らしづくりネットワーク北芝

尼野 千絵氏



社会的居場所「あおぞら」の活動を通じて、若者当事者同士でピアサポートの関係が生まれた参加者は多く、相談事業のなかでは出てこない家庭で起きた深刻な悩みの話をしたり、互いに癒しあうケースも少なくありませんでした。そのような深刻な話を受け止めるのは、実は当事者同士のほうが上手なこともあり、ピアサポートの重要性をあらためて実感しました。

今後の展望としては、地域のなかで若者支援のネットワークを構築する必要があると感じています。現在は助成事業で行った「箕面若者支援施策のあり方研究会」も福祉、労働、教育と多様な分野から参加していただきながら継続しています。若者支援と一緒に考えてくれる支援者や資源を増やしていくことは、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。



助成事業で作成した「若者の生きづらさを小さな声で絶叫するマガジン」。当事者自身が生きづらさを言語化し、社会に発信する内容となっている（このマガジンは、WAM助成e-ライブラリーでご覧いただけます）

な要素であると認識できたことは成果だと感じています。活動を通して若者当事者同士のつながりができ、『あおぞら』以外でもそれぞれに自分の心の置き場所をみつけている利用

者も多くいます。そのため、現在は『あおぞら』を閉所し、実施していた各プログラムを地域のなかに分散させるかたちで活動を継続しています。今後は、コーヒー焙煎の活動を若者の仕事とし、焙煎した豆を商品化することも考えています。

誰もが暮らしやすいま

ちを目指し、生きづらさを抱える若者支援を行う同法人の取り組みが全国に広がるのが期待される。

◆団体概要

〒562-0014 大阪府箕面市萱野2-11-4
TEL: 072-720-6630 FAX: 072-720-6623
URL: <http://www.kitashiba.org/>
設立: 平成13年6月
代表理事: 埋橋 伸夫



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課 (助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)
TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課 (助成事業の広報、事業評価等)
TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)

民間福祉活動の連携とは? 申込受付中!

WAM助成シンポジウム

多様な連携のカタチ

2018年9月27日(木)開催

